



綱引人間ばん馬 大活躍

全国大会決勝は置戸同士で対決



人間ばん馬一世チームのひっぱり

昭和56年、NHKが正月番組の1つとして全国綱引大会を企画しましたが、出場チームを選ぶのに苦心。NHKでは力自慢の競技歴をもつ市町村を物色した結果、夏まつりで力強く荷を引くおけと人間ばん馬に北海道代表の白羽の矢をたてました。山本佳一、細川昭夫、澤田常助、安藤栄作らがリーダーとなって、並はずれた力を持つ笹久保勲選手らを迎え、連日科学的トレーニングを開始した結果、全国制覇の栄冠を持ち帰り、町を沸き返らせました。

その年、日本綱引連盟が誕生して全国大会を開催しましたが、置戸は翌年の第2回大会より出場。同57年全国制覇を成し遂げました。そして、第3回全日本綱引選手権大会道予選には、人間ばん馬一世チームのスパーリングトレーナーを務めていた二世チームが優勝して、前年度チャンピオンで無条件出場の権利を持つ一世チームとともに全国大会々場の東京へ出発、置戸の人間ばん馬チーム一世・二世はともに順調に勝ち進んで決勝戦に進

出、置戸のチーム同士で争うという世紀の対決が行われ、一世チームが連続優勝の栄冠に輝きました。都道府県代表の中には、県予選において80チームの中から勝ち進んできた秋田、72チームから選ばれた福井代表など強豪ぞろいが24チームも集まり、トーナメント方式で試合が進められ、置戸同士の決勝戦はテレビ解説者の声も興奮していました。置戸では祝賀会に300人が集まり、熱烈祝勝したのはいうまでもありません。

連勝記録を更新するごとに圧力がかけられます。その圧力をはねのけて、同59年の第4回大会でも置戸はまたも二世が全道制覇を成し遂げ全国大会へ出場しましたが、準々決勝で負けました。しかし、一世はまったく相手を寄せつけない試合展開で、37チームの頂点に立ち、報道陣のフラッシュを浴び、NHK杯を含め4年連続日本一の栄冠を勝ち取りその名を残しました。

(参照『置戸町史下巻』 ※文中人名敬称略)

オケクラフト職人を目指して

オケクラフトの職人を育てる「オケクラフト作り手養成塾」の入塾式が4月15日、山村文化資源保存伝習施設どま工房で行われました。

アトリエ・ときデザイン研究所の時松辰夫さんを名誉塾長に、技術指導は養成塾主任講師片岡祐士氏を中心に町内の作り手が担い、2年間、森林工芸館などで基礎的な技術を学びます。

入塾したのは湧別町出身で東京の会社でグラフィックデザイナーをしていた鈴木美里さん、仙台出身で道内の支援学校で教員をしていた畠法子さんの2人で、いずれも転職を決意し、工房を立ち上げる夢を実現しようと入塾しました。

畠さんは「ものづくりが好きで挑戦したいと思いました。先輩方から学んでいきたい」と決意を語りました。井上町長からは「オケクラフ

トを今以上に多くの人に知ってもらいたい。その担い手として努力、頑張りを期待している」と激励しました。時松名誉塾長は「ものづくりは安易にマネをしない。これぞという原型を作り、社会に提案してほしい」とエールを送りました。

オケクラフト職人養成制度は1984年にスタートし、これまで生徒49人が卒業し、うち17人が工房を開設しています。



入塾した鈴木さん(左)と畠さん